

中東・中央アジア地域研究分野

国際環境・地域環境学講座、
中東・中央アジア地域研究分野の活動報告

教授
木村 喜博



インド工科大学にて Pushpa Trivedi 先生（右）と



ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラム集中講義の授業風景

中東・中央アジア地域研究分野の研究領域は、当該地域の人間社会が、これら人間社会を構成する諸要因（内的・外的な政治的、経済的、社会的、思想・文化的諸要因や人間社会が依って立つ自然環境）によって、どのように変化してきたのか（人間社会の生業システム、社会・生活システム、思想・文化システム）を総体的に理解する研究を実証的に行っています。

その際、これを他の社会と比較しながらこの地域の特徴と将来の方向性を論ずることを念頭においています。例えば、自然環境（気候・風土、資源の存在と利用、災害など）、政治紛争・衝突、社会・文化的差異（民族・部族、宗教、言語、慣習）、技術とくに情報技術の発展が人間社会の構成（政治環境、経済環境、社会・文化環境）とどのように関わっているのか、または関わっていくのかについて研究を展開しています。

また、今年度からは、「ヒューマン・セキュリティと環境」という新しい教育コースに参加しました。このコースでは、当該地域の社会・経済開発がもたらした環境問題が人間・人間社会の尊厳と生存、生活を脅かしているその実態とメカニズムを複合的な視点から理解し、解決の方向を探る研究を行っています。4月からこのコースに2名の学生が入学しています。

今年度の当研究分野の構成員は、教官教授1名の他に、後期3年の課程の院生5名、前期2年の課程の院生3名（うち2名は「ヒューマン・セキュリティと環境」コース）です。

[今年度の中東・中央アジア研究分野における活動]

当該研究分野では今年度は次のような研究・教育活動を行ってきました。

I 中央アジアの環境問題に関する共同研究の発足

中央アジアが抱える環境問題とこれが人間の安全保障に与える影響について共同研究を実施することに合意しました。部局間協定締結校であるウズベキスタンのタシケント国立経済大学の研究者を中心とし、さらにキルギス共和国のキルギスタン国際大学の研究者を含めて、「中央アジアにおけるヒューマン・インセキュリティと環境」研究会を実施することになりました。

II 「ヒューマン・セキュリティと環境」コースへの参加

今年度から環境科学研究科で開講した「ヒューマン・セキュリティと環境」コースに参加しました。教授は、このプログラムの全体組織「ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラム」に対する研究協力の可能性を打診するために、大学間学術交流協定校であるモロッコのムハンマド5世大学とインド工科大学ボンベイ校を訪問しました。その結果、「ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラム」の特別講義（12月5～9日に集中講義として実施）の講師派遣依頼や「ヒューマン・インセキュリティと環境」についての連携研究を行うことで合意しました。

III 他研究科への教育協力

大学院国際文化研究科のイスラム圏研究講座に教育協力を行っています。ここでは、後期3年の課程の院生4名（1名は外務省に就職し現在休学中、1名はウズベキスタン科学アカデミーに留学後復学）と前期2年の課程の院生1名の研究指導を行っています。後期3年の課程の

（構成：教授1名、前期2年の課程の院生3名、後期3年の課程の院生5名）



ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムの特別講義（インド工科大学の先生と学生）



ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムの特別講義（ムハンマド5世大学の先生と学生）

1名は、平成18年度日本学術振興会特別研究員（DC2）に採用されることが内定しました。

IV 院生の研究活動

<環境科学研究科の中東・中央アジア地域研究で研究している院生>

- 1) 伊藤雄高（海外での資料収集）
 - A. 英国ダーラムでの資料収集（2005年9月16日～10月12日）
 - 英植民地時代以降のスーダンにおける土地所有、土地政策、農業、資源利用等に関する資料、研究文献の収集 [財団法人東北開発記念財団 海外派遣援助]
 - B. エジプト カイロでの資料収集（2005年10月13日～11月1日）
 - カイロ・アメリカン大学、グレーター・カイロ図書館、市内古書店等で、スーダンに関する資料・研究文献全般の収集。
- 2) 東久美子（学会発表）2005年6月11日
 - 東北大学国際文化学会の第12回大会で、「環境破壊と地域社会の構造変容—イラク・クルドの事例—」について発表。
- 3) 柳瀬（須藤）由子（海外現地調査）2005年9月～11月
 - 研究対象国のクウェートの厚生労働省、医師・薬剤師関係、医学教育、ワクフ省等で、聞き取り調査と資料収集。
- 4) 勝又梨穂子（シンポジウム発表）2005年11月26日
 - 第4回東北大学男女共同参画シンポジウムで、沢柳賞プロジェクト部門特別賞成果報告として、「ウィメンズ・リブ、フェミニズム、男女共同参画—仙台地域の例を中心に—

について発表。

- 5) ルダコヴァ・カミラ（海外調査）2005年8月4日～28日
 - A. ウズベキスタンのチルチク市で耐火抵抗金属工場を訪問し現地状況の調査や資料収集を行い、タシケント市とブハラ市ではそれぞれタシケント国立 A. Navoi 図書館とブハラ市立公文書館で資料の収集を実施。
 - B. キルギス共和国のビシュケク市の国立図書館（党公文書館）で資料の収集。
- <国際文化研究科の中東・中央アジア地域研究で研究している院生>**
 - 6) 高畑祥子（学会発表）
 - A. 東北大学国際文化学会 第12回大会（2005年6月11日）で、「オスマン帝国のアメリカ人宣教師—19世紀末から20世紀初頭を中心に—」について発表。
 - B. 日本オリエント学会 第47回大会（2005年10月30日）で、「トルコ共和国初期におけるキリスト教宣教師の活動の転換—教育政策との関連から—」について発表。
 - 7) 浅村卓生（ワークショップでの発表）
 - A. 日本中央アジア学会 第7回まつざきワークショップ（2005年3月29日）で、「現代ウズベク標準語とその普及」について発表。
 - B. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、GICAS プロジェクト主催ワークショップ「周縁アラビア文字の世界—規範と拡張③—」（2005年7月16日）で、「ウズベク語におけるアラビア文字改良と周辺諸国への影響」について発表。